

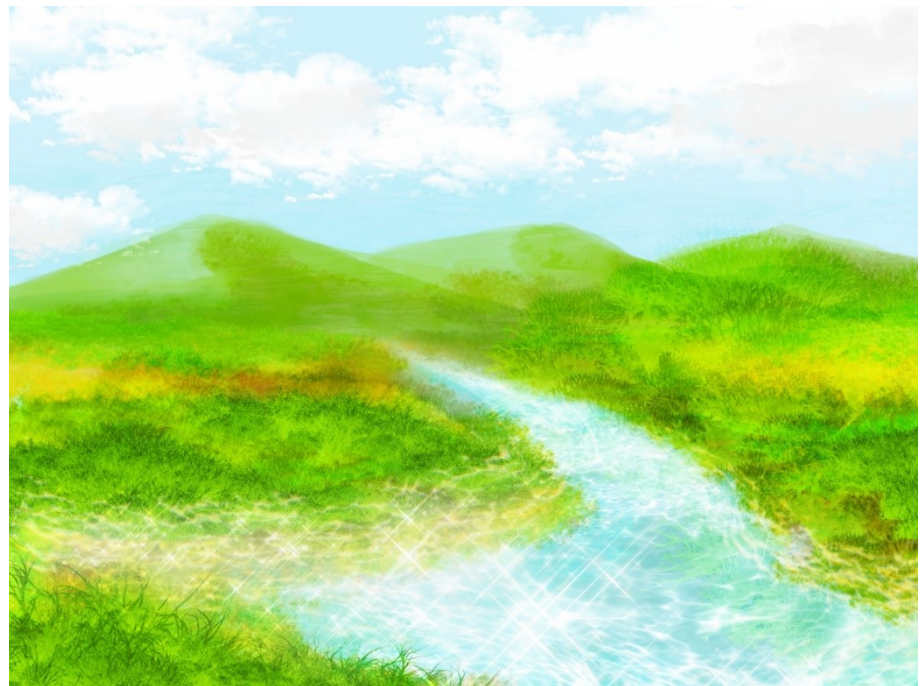
第 26 回日本実存療法学会

第 8 回国際全人医療学会

プログラム・抄録集

テ ー マ

ポスト・コロナ時代をどう生きるか



会 期

2021年6月19日(土)10:00~2021年6月30日(水)12:00

形 式

オンライン開催(上記期間中に当財団ホームページ上にて公開)

主 催

日本実存療法学会／国際全人医療学会
公益財団法人国際全人医療研究所

御 挨 拶

第 26 回日本実存療法学会および第8回国際全人的医療学会を迎えて

永田勝太郎

第 26 回日本実存療法学会／第 8 回国際全人医療学会 大会長
日本実存療法学会・国際全人医療学会 代表理事

昨年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い、学会の開催が叶いませんでした。今年も未だ世界はコロナ禍の渦中にあります。しかし、このまま停滞に甘んじていては後退を意味します。会員の皆様と直接お目にかかれずたいへん残念ではありますが、時代の変化を前向きにとらえ、「智慧を共有する場づくり」を最優先し、初のオンライン学会開催の運びとなりました。

本学会でご講演いただく演者の先生方は皆、各分野のエキスパートです。講演をご観覧いただいた後、ご質問やご意見がありましたら、ぜひ事務局宛てにメールをお送りください（メールアドレス：ifcm@nifty.com）。演者に引き継ぎいたします。

また、昨年度は、登録国際実存療法士（RIL）の資格認定講習会、ワークショップも中止となりました。今年度は、秋の開催に向け準備中です。詳細につきましては、最新の機関誌「Comprehensive Medicine 全人的医療 Vol.19 No.1」および当財団ホームページ（<https://www.compmed.jp/>）をご覧ください。

このような状況下においても、学会活動を停滞させてはなりません。今後とも鋭意、研究や発表などの活動に努めてまいります。

まずは何よりも、会員の皆様の健康が第一です。感染には十分ご注意ください。そして、免疫力をしっかりと上げる日常生活を心がけてください。

「よく食べること」「よく寝ること」「排泄が十分できること」「心が平静であること」が肝要です。

皆様のご健勝を心からお祈りいたします。

プログラム

教 育 講 演

V.E.フランクルにおける「生きがい論」の射程 -自己実現から自己超越へ-
鶴田一郎（広島国際大学 健康科学部 医療栄養学科／教職教室（兼任）准教授）

特 別 講 演

データマイニングからコーチングへ：ビジネス・パーソンの行動変容
斎藤聖美（ジェイ・ボンド東短証券株式会社 代表取締役社長）

シンポジウム

整形外科開業医療における専門横断的(transdisciplinary)アプローチ：全人的な整形外科医療
喜山克彦（喜山整形ハーブクリニック 院長）

専門横断的(transdisciplinary)チームにおいて理学療法士が目指すもの
加藤晃己（喜山整形ハーブクリニック 総合リハビリ科 科長）

フランクル「マネージャー病」についての1考察
元吉正幸（こころと身体研究所 所長）

実存的対話から生まれる意識の創造的進化
吉津紀久子（医療法人協和会 本部・総務部 クオリティマネジメント室 公認心理師／臨床心理士 大阪大学大学院 医学系研究科 招聘教員）

ロゴセラピーと身体因性偽精神病 -本態性低血圧のある甲状腺機能亢進症の1例から-
志和悟子（公益財団法人 国際全人医療研究所／千代田国際クリニック 公認心理師）

市民公開講座

ポスト・コロナ時代をどう生きるか -意味への意志の発動-
永田勝太郎（公益財団法人 国際全人医療研究所 代表理事）

教 育 講 演

V.E.フランクフルにおける「生きがい論」の射程

—自己実現から自己超越へ—

鶴田一郎

広島国際大学 健康科学部 医療栄養学科／教職教室(兼任)准教授

本講演では、近現代における「ニヒリズム」および「悪しきヒューマニズム」に対する V.E.フランクフルによる批判の検討を通して、人間存在、すなわち「実存」の「本質的存在様態への志向性」に関する視座を「自己実現から自己超越へ」と移行させていく必要性と重要性を、心理臨床体験をもとに論述する。その際、フランクフルにおける「生きがい論」への射程が明確になるように、現代における心理臨床と「生きがい論」の課題として次の 4 つの視点を設定した。それは、(1)人間存在(実存)にとって「気づき」とは何か:「アウェアネス」と「生きがい」の関係を探究すること、(2)人間存在(実存)にとって「わかりあうこと」とは何か:「了解」と「生きがい」の関係を探究すること、(3)人間存在(実存)にとって「共に歩むこと」とは何か:「同行(どうぎょう)」と「生きがい」の関係を探究すること、(4)人間存在(実存)にとって「かわること」とは何か:「変革体験」と「生きがい」の関係を探究すること、である。

キーワード: 心理臨床と生きがい、アウェアネス、了解、^{どうぎょう}同行、変革体験

プロフィール

◆ 鶴田 一郎（つるた いちろう）

< 現職 >

広島国際大学 健康科学部 医療栄養学科／教職教室（兼任）准教授

< 略歴 >

出生

1962 年 11 月 6 日 福岡市 大橋 生まれ

学歴

1986 年 明治大学 文学部 中途退学

1992 年 放送大学 教養学部 人間の探究専攻卒業（教養学士）

1994 年 放送大学 教養学部 発達と教育専攻 卒業（教養学士）

1997 年 東洋大学 大学院 文学研究科 教育学専攻 修士課程 修了（教育学修士）

2004 年 名古屋大学 大学院 教育発達科学研究科 心理発達科学専攻 博士課程（後期課程）修了（博士（心理学））

職歴

1985 年から 2 年間 ODA（政府開発援助）西サモア建設プロジェクトに従事

1987 年から 7 年間 東海学院文化教養専門学校 教員および教育相談員

1995 年から 3 年間 東京都江戸川区教育委員会 葛西分室教育相談室 教育相談員（心理）

1998 年から現在、広島国際大学教員

< 専門分野、その他 >

発達障害児者を含む教育領域の心理臨床

1999 年 平成 10 年度 日本カウンセリング学会 奨励賞 受賞

公認心理師／臨床心理士

特 別 講 演

データマイニングからコーチングへ:ビジネス・パーソンの行動変容

齋藤聖美

ジェイ・ボンド東短証券株式会社 代表取締役社長

「経営者は孤独」とよく言われます。置かれた状況や立場をよく理解して相談に乗ってくれる人が周囲にいないからでしょう。そこで、コーチングが注目されるようになってきました。

経営者は、自分が成功者であると認識しています。ですから、自分が変わる必要がある（行動変容）とは思いません。たとえ自らコーチングを望んでも、素直に人のアドバイスを聞けないのが実情です。

彼らに真実を理解させるには、データを突きつけるのがもっとも効果的です。データは集めておしまいではありません。しかし、データは多ければよい、というものでもありません。説得力のある関連性の高いデータを見つけ出すことが、データマイニングです。そのデータを活用して、改善すべき点を彼らの心の奥底に届かせるコーチング・スタイルは、応用範囲の広いものです。経営者は、皆、それなりのミッションを持っています。データは、そのミッションを賦活する材料にならないといけません。いかに、合理的にミッションを達成するか、そのプロセスにコーチングは関わります。言わば、「意味への意志の発動」（フランクフル）の合理的方法がコーチングです。

経営者・経営幹部に行われるコーチングについてお話し、それが実存分析の実践に何かしらのヒントとなれば幸いです。

キーワード：コーチング、データマイニング、自ら変わる

プロフィール

◆ 斎藤 聖美（さいとう きよみ）

< 現職 >

ジェイ・ボンド東短証券株式会社 代表取締役

< 略歴 >

1950年生。東京出身。慶應大学経済学部、ハーバード・ビジネス・スクール卒業。MBA取得。日本経済新聞社、ソニー株式会社に勤務の後、留学。帰国後モルガン・スタンレー投資銀行の東京支店とニューヨーク本社に勤務。1992年に独立。インターネットプロバイダーの会社（GOL）等を起業・経営の後、2000年に現ジェイ・ボンド東短証券株式会社を設立。証券会社およびPTSの認可を得て、日本で唯一の日本国債のレポ電子取引システムを運営。各種審議会委員、郵政民営化委員など公職を務めるかたわら、アステラス製薬、昭和電工（現）、東芝、かんぽ生命、鹿島建設（現）、かどや製油（2021年6月就任予定）の社外役員を務めている。大学基準協会評議員および認定委員。バスケットボール女子日本リーグ会長。

30冊以上の経営書の翻訳書を出版、マーシャル・ゴールドスミスのコーチングに係るすべての著書を手掛けている。

< 著書・訳書 >

『女の出発（たびだち）ハーバード・ビジネス・スクール』（東洋経済新報社）

『女性の時代』（弘文堂）

『キヨミの挑戦』（早川書房ハヤカワ・ノンフィクション文庫）

『ワーキングウーマン、もうひと頑張り』（N T T出版）

『いまだ目標に達せず』（翻訳）（早川書房）

『となりの億万長者』（翻訳）（早川書房）

『職場を生き抜く法』（リヨン社）

『クライシス・マーケティング』（翻訳）（経済界）

『ゴールドマン・サックス』（翻訳）（早川書房）

『そうだ！社長になろう』（文藝春秋）

『会議が絶対うまくいく法』（翻訳）（日本経済新聞社）

『チームが絶対うまくいく法』（翻訳）（日本経済新聞社）

『リーダーへのパスポート』（創己塾名講義プロジェクト）

『ウイニング 勝利の経営』ジャック・ウェルチ著（翻訳）（日本経済新聞出版社）

『ジャック・ウェルチの「私ならこうする」』（日本経済新聞出版社）

『コーチングの神様が教える「できる人」の法則』（日本経済新聞出版社）

『ゲームの変革者』（日本経済新聞出版社）

- 『コーチングの神様が教える後継者の育て方』（日本経済新聞出版社）
- 『入門 ケース・メソッド学習法』（ダイヤモンド社）
- 『ゴールドマン・サックスー王国の光と影』上下巻（翻訳）（日本経済新聞出版社）
- 『コーチングの神様が教える「前向き思考」の見つけ方』（翻訳）（日本経済新聞出版）
- 『国際金融危機にどう立ち向かうか』（翻訳）（日本経済新聞出版社）
- 『リスク、人間の本性、経済予測の未来』（翻訳）（日本経済新聞出版社）
- 『トリガー 自分を変えるコーチングの極意』（翻訳）（日本経済新聞出版社）
- 『ジャック・ウェルチの「リアルライフ MBA」』（翻訳）（日本経済新聞出版社）
- 『コーチングの神様が教える「できる女の法則」』（翻訳）（日本経済新聞出版社）
- 『プリンシプルス』（翻訳）（日本経済新聞出版社）
- 『How Finance Works ハーバード・ビジネス・スクール ファイナンス講座』（翻訳）（ダイヤモンド社）
- 『Principles for Success 成功の原則』（翻訳）（日経 BP）

シンポジウム

**整形外科開業医療における専門横断的(transdisciplinary)アプローチ：
全人的な整形外科医療****喜山克彦, 加藤晃己, 絹川典, 市川亜弥**

喜山整形ハーブクリニック

整形外科外来において慢性疼痛の患者が多く受診する。しかし慢性化した疼痛の病態は複雑であり、単一の専門分野での治療では効果がないことがしばしばである。複雑な問題を解決するために複数の分野（multiple disciplinarity）にまたがるアプローチが試みられる。そのアプローチの視点には多専門的（multidisciplinary）、学際的（interdisciplinary）および専門横断的（transdisciplinary）の3つがある。地方整形外科開業医療において専門横断的（transdisciplinary）アプローチである身体的・心理的・社会的・実存的医療モデル（BPS-E モデル）を導入した。このことは可逆性の慢性疼痛に対する治療、慢性疼痛および慢性機能障害性身体的苦悩（CDBD）発症の予防および慢性疼痛難民の減少に寄与する可能性があると考えられる。

キーワード：専門横断的（transdisciplinary）、多専門的（multidisciplinary）、学際的（interdisciplinary）、慢性疼痛、身体的・心理的・社会的・実存的医療モデル（BPS-E モデル）

プロフィール

◆ 喜山 克彦（きやま かつひこ）

<現職>

喜山整形ハーブクリニック 院長

<略歴>

1983 年 東京学芸大教育学部中退

1992 年 琉球大学医学部医学科卒業、同年琉球大学整形外科入局

2004 年 浜松医科大学心療内科で研修、永田勝太郎先生に師事

2010 年 静岡県富士市に全人的な整形外科医療を実践するクリニックを目指して開業

<専門医>

日本整形外科学会専門医

日本東洋医学会専門医

シンポジウム

専門横断的(transdisciplinary)チームにおいて理学療法士が目指すもの

加藤晃己

喜山整形ハーブクリニック 総合リハビリ科 科長

一般的に整形外科医療において、理学療法士は、専門的視点の認識論である病理運動学的モデルや運動病理学的モデルに基づき、運動器機能の改善を通して基本的動作能力の回復を図る。

しかし、受診した患者の中には、しばしば線維筋痛症などの機能性身体症候群（FSS）が存在する。FSS の病態は複雑であり、複数の分野からのアプローチが必要である。

当院では、運動器の痛みなどの整形外科症候全般において、専門横断的アプローチによるチーム治療を目指している。また、このアプローチにおける「チーム内で共有する概念のフレームワーク」として、身体的・心理的・社会的・実存的医療モデルを導入している。理学療法士は、このチームにおいては、徒手療法などの身体的治療を通して、運動器機能だけではなくホメオスタシス（生体恒常性）の歪みの改善を目指すことになる。

本講演では、このアプローチにおける理学療法士が行う一般の身体的治療とFSS に対する治療について報告し、理学療法士が目指すものに対して論ずる。

キーワード：理学療法士、慢性疼痛、専門横断的アプローチ、徒手療法、機能性身体症候群（FSS）

プロフィール

◆ 加藤 晃己（かとう こうき）

< 現職 >

喜山整形ハーブクリニック 総合リハビリ科 科長

< 資格 >

理学療法士

< 略歴 >

2013 年 富士リハビリテーション大学校卒業

2013 年 喜山整形ハーブクリニック入職

< 所属学会 >

日本理学療法士協会

日本慢性疼痛学会

日本実存療法学会

国際全人医療学会

日本疼痛心身医学会

シンポジウム

フランクフル「マネージャー病」についての 1 考察

元吉正幸

こころと身体研究所 所長

ヴィクトール・E・フランクフルは、1951 年から 5 年間にわたり、心理療法をテーマにラジオでの連続講演を行った。『心理療法の 26 章』は、その内容を収めた著書である。

その 1 章となる「マネージャー病」の講演内容は、「マネージャー病」としてよく話題になっていることについての 1 例をあげ、体をすり減らしてまで仕事に打ち込んでいる経営者が、それに飽き足らず、更なる経営拡大と物質的な豊かさを手に入れるために全力を尽くすような人であるとし、その結果、過剰なマネジメントによる心身ストレスから、脳卒中や心臓発作などが起こる現象について語っている。

予防としては、①過度の興奮を避け②十分な睡眠量を取り③心身ストレス解消のためのスポーツや、当時よく知られていた身体を調える体操を規則的に行うことであると述べている。

上記の 3 つのシンプルな生活習慣の改善と日常実践の必要性は、令和時代の日本の過労死や突然死の問題に明確な解答をしていると考える。本書は、日本では『時代精神の病理学－心理療法の 26 章－』として 2016 年に新装版が出版されており、フランクフルの世界観を知るうえでの重要な著作であると考えられる。

キーワード：フランクフル、心理療法の 26 章、時代精神の病理学、マネージャー病

プロフィール

◆ 元吉 正幸（もとよし まさゆき）

<略歴>

1961年 千葉県勝浦市に生まれる。

千葉県勝浦市で、元吉接骨院開業、南風堂鍼灸治療室、こころと身体研究所 開設。

鍼灸、あん摩マッサージ指圧師、柔道整復師、精神保健福祉士、ストレス・チェック実施者、健康運動指導士、実践健康運動指導者、温泉利用指導者、調理師、ホームヘルパー

（公社）東京都鍼灸師会症例検討会運営委員、鍼灸臨床セミナー講師

（公社）千葉県鍼灸マッサージ師会学術部部長、千葉県柔道整復師会南総支部学術部長、

（公社）全日本鍼灸学会認定鍼灸師

日本健康運動士会千葉県支部長、日本臨床コーチング研究会幹事・認定コーチ

講道館柔道初段、合気会合気道初段、生け花草月流師範、茶道裏千家初伝、鍼灸教員免許、チーム医療BBC（ブレイキング・バリア・コミュニケーション）ファシリテーター、

日本アンリ・ファール会、ファールマスター10種、ゴールド・マスター10種認定

（公社）全日本鍼灸マッサージ師会S級スポーツ鍼灸マッサージ師

（公社）東京都鍼灸師会公認スポーツトレーナー鍼灸師

日本陸上競技連盟ジョギング指導者、千葉県体育協会アスレチック・トレーナー、

発達と教養（学士）、生活と福祉（学士）厚生労働大臣表彰、勝浦市市政功労者表彰。

シンポジウム

実存的対話から生まれる意識の創造的進化

吉津紀久子

医療法人協和会 本部・総務部 クオリティマネジメント室 公認心理師／臨床心理士
大阪大学大学院 医学系研究科 招聘教員

日々の臨床の間では患者の様々な苦悩と向き合うことも多い。筆者は患者が語る苦悩の世界を注意深く見つめ、患者にそれを伝えつつ、いっしょに観察しながら対話ができるように努めている。患者の語りは最初、「なぜこんなことが我が身に起こるのか」といった問いの言葉で始まるが、この「なぜ」という問いかけが患者とセラピストの対話によって深まっていくと、患者は苦悩していること自体が自分自身の実存性と深くつながっていることに気づくようになる。“突然投げ込まれた苦悩”から“今確かに私の人生に起こっている私の苦悩”への認識変化であり、それはさらに苦悩に対する態度変容につながる。筆者はそのような患者との実存的対話の中で、個人の人生観に新たな意味が創造される瞬間を経験してきた。

V.E.Frankl は“苦悩すること”を決して否定的に捉えていない。“苦悩すること”はより高次の意識に人を導くものであり、個々人が実存性に向かっていく過程として位置づけている。ここではさらに患者とセラピストの対話には、セラピスト自身の実存性や創造性が重要であることも検討していきたい。

キーワード：実存的対話、苦悩すること、意識の創造的進化

プロフィール

◆ 吉津 紀久子（よしづ きくこ）

<現職>

医療法人協和会 本部・総務部 クオリティマネジメント室 公認心理師／臨床心理士
大阪大学大学院 医学系研究科 招聘教員

<略歴>

東京学芸大学教育学部学校教育科卒業、関西学院大学大学院文学研究科博士課程前期課程教育学専攻終了、後期課程教育学専攻満期退学、関西学院大学、関西女子短期大学非常勤講師、大阪大学医学部附属病院・保健医療福祉ネットワーク部／医療技術部／遺伝子診療部を経て現職

<専門分野>

臨床心理学

<著書>

- * 「がんの統合医療における真実と真実の告知」

『がんの統合医療』 伊藤壽記監訳 2010 年

- * 「小児科から臨床心理学への期待」 吉津紀久子・大田秀明

『臨床心理学』 第 11 巻 1 号(通巻 61 号) 2011 年

- * 「10 代患者と家族への支援の実際」 『小児看護』 vol.34 No.3 2011 年

- * 「思春期のがんの子どもの心を育むケアー臨床心理からのアプローチー」

『小児がん看護』 Vol.6 2011 年

<論文>

- * 「がん医療において心理士に求められる役割について

ー大阪大学医学部附属病院心のケアチームの臨床実践データからー」

『心身医学』 第 52 巻 5 号 2012 年

- * 「がん医療において心理士に求められる介入のありかたについて

ー大阪大学医学部附属病院心のケアチームの臨床実践データからー」

『心身医学』 第 54 巻 4 号 2014 年

- * 「患者のストレス早期発見チェックシートの開発

ー調査データの統計的解析と今後の展望ー」

『心身医学』 第 56 巻 12 号 2016 年

- * 「病の意味の再発見と希望に向かう力

ー患者との対話からうまれたものー」

『Comprehensive Medicine』 Vol.17 No.1 2018 年

シンポジウム

ロゴセラピーと身体因性偽精神病

- 本態性低血圧のある甲状腺機能亢進症の 1 例から -

志和悟子, 永田勝太郎, 野垣健, 伊藤千鶴, 大塚理紗, 大槻千佳

公益財団法人国際全人医療研究所附属千代田国際クリニック

【目的】現在「抑うつ」と診断され、休職するケースは多い。「心因性」とされることが多いが、詳細に身体面を評価していくと「身体因性」であり、それにより心因反応を伴っていることも多い。抑うつ反応を呈した、本態性低血圧のある甲状腺機能亢進症の症例を経験したので報告する。

【症例】20 代女性。主訴は全身倦怠感、朝の不調、PMS（月経前症候群）。10 代から低血圧であった。大学卒業後、会社員として勤務。

【経過】初診時 X 年、臥位での血圧は SBP（収縮期血圧）：87mmHg、DBP（拡張期血圧）：64mmHg、HR（心拍数）：58bpm。心係数：1.7 l/min/m²であった。立位時は測定不能であった。心臓の inotropic action（変力作用）の低下を伴う起立性低血圧と考え、強心剤等の治療により改善傾向が観られた。X+1 年、降格に該当する職場異動があった。その後 X+2 年に朝の不調を再び訴えた。近医にて気分障害、発達障害と診断され、向精神薬を処方されたが、服用を躊躇し中止した。当院でも休職の必要性を診断し、休職に至った。休職開始からカウンセリングを実施した。カウンセリングでは他者への自己開示の欠如と、過去への後悔が観られた。過去を含めた人生全体を考える実存分析的アプローチを行った。診察にて甲状腺腫に気づき、甲状腺機能亢進症が明らかになった。抗甲状腺剤による治療が始まった。患者の状態は「身体因性偽精神病」（二次性精神病）であることが分かった。患者はこれまでの経験を振り返り、病態に納得した。そして、これまで打ち明けられなかったことをカウンセラーと家族に全て伝えることができた。今まで感じたことのない安堵を得た。現在は転職を成功させ、身心ともに安定している。

【考察】未治療甲状腺機能亢進症による抑うつ反応の一例であると考えられた。他者への自己開示の乏しさから、発達障害の診断を受けたと思われるが、それが患者の心をさらに閉ざしてしまうことに繋がったのではないかと考えられた。心因性と決めつけず、身体面を的確に評価していくバリント方式の医療面接法が有用であり、結果的に心理面の解放にも繋がったと考えられた。

キーワード：抑うつ、甲状腺機能亢進症、身体因性偽精神病、ロゴセラピー、バリント方式の医療面接法

プロフィール

◆ 志和 悟子（しわ さとこ）

< 現職 >

千代田国際クリニック 公認心理師

< 略歴 >

日本大学短期大学部卒業。産業能率大学情報マネジメント学部卒業。民間企業勤務後、カウンセラー職。産業カウンセリングおよびキャリアコンサルティング経験の中で、身体面の重要性を認識。臨床心理学を学び現職。17歳よりフランクフル哲学を基礎としている。

< 資格 >

上級国際実存療法士

公認心理師

産業カウンセラー

キャリアコンサルタント

2級キャリアコンサルティング技能士

EAP コンサルタント

< 受賞 >

日本温泉気候物理医学会研究奨励賞 2019年

< 所属学会 >

日本実存療法学会

日本疼痛心身医学会

日本心身医学会

日本慢性疼痛学会

日本温泉気候物理医学会

市民公開講座

ポスト・コロナ時代をどう生きるか

- 意味への意志の発動 -

永田勝太郎

公益財団法人国際全人医療研究所 代表理事
千代田国際クリニック 院長

歴史を紐解くと、私たちの先祖は多くのストレスを経験し、それを乗り越えてきたかに生きてきた。今日、コロナ禍が社会を閉塞的に覆っている。人々はどううつうつとし、うんざりしている。

しかし、人類の歴史上には何度もの戦争など極めて大きな困難やストレスがあった。人類はそれらを培った英知によって乗り越えてきた。

それは、どのようなものであったのだろうか。ここでもう一度、思い起こしてみたい。そこにはきっと、コロナ禍を乗り越える英知が隠されている。

私どもの敬愛するヴィクトール・E・フランクル先生は、第2次世界大戦時に強制収容所に収容され、そこで自らの創り上げた実存分析 (logotherapy, existential analysis) が正しいことを実証した。

先生の学問は、「意味への意志の発動 (行動化)」ということばで表現される。誰にも意味はある。だが、安穏とした日常ではそれに気づくこともなく、また、その必要もない。しかし大きなストレス下に置かれると、人々は必死にそこから逃れたいと考える。その時、自己に与えられた人生の意味 (ミッション) に気づくことは、そこから逃れる「よすが※」となる。

(※よりどころ、たより、てがかり、てだて)

私たちは一人で生きているのではない。自己の存在は、自分のためにあるだけでなく、他者のためでもある。そこに、あなたは固有の意味を見出すことができる。

「あなたが人生に絶望しても、人生はあなたに絶望していない」というフランクル先生のことばは、他者と支え合う中に自己を見出すという意味を含んでいる。

「あなたを待っている誰かや何かがある限り、あなたは生き延びることができるし、自己実現できる」

フランクフル先生は、こう結んでいる。

ここに、ポスト・コロナ時代を生き延びる智慧がある。

社会との深い結びつき、世界との関係、地球環境との深い結びつきの中で、私たちは生かされ、生きている。この考え方はフランクフル先生のみならず、世界の宗教にも共通である。

こうしたフランクフル先生の教えにもう一度立ち返り、ポスト・コロナ時代を生き抜く糧にしたい。

キーワード：実存分析、意味への意志の発動、行動化、人生の意味、ミッション

プロフィール

◆ 永田 勝太郎（ながた かつたろう）

<現職>

公益財団法人 国際全人医療研究所 代表理事

WHO（世界保健機関）心身医学・精神薬理学 教授

千代田国際クリニック 院長

リヒテンシュタイン国際学術大学院ヴィクトール・E・フランクフル講座 名誉教授

<経歴>

慶応義塾大学経済学部中退後、福島県立医科大学卒業。千葉大学、北九州市立小倉病院、東邦大学大橋病院麻酔科、浜松医科大学付属病院心療内科科長、日本薬科大学統合医療教育センター教授・センター長を経て、現職。池見西次郎教授、ヴィクトール・E・フランクフル博士、ステイシー・デイ教授（WHO）に師事。

<役職>

日本実存療法学会 理事長、日本疼痛心身医学会 理事長、日本慢性疼痛学会 名誉会員、ヴィクトール・E・フランクフル研究所（ウィーン）名誉会員、ほか。

<受賞>

「ヒポクラテス賞」、「アルバート・シュバイツァー・グランド・ゴールドメダル」、「ヴィクトール・E・フランクフル大賞」など受賞。

<おもな著書>

『人生はあなたに絶望していない』（致知出版社）、『「血糖値スパイク」が万病をつくる！』（ビジネス社）、『本当は怖い「低血糖」』（秀和システム）、『痛み治療の人間学』（朝日新聞出版）、『痛みの力』（海竜社）、『新しい医療とは何か』（NHK ブックス）、『<死にざま>の医学』（NHK ブックス）、『心身症の診断と治療』（診断と治療社）、『実存カウンセリング』（駿河台出版社）、『医学・医療総論』（照林社）、『体質・症状・病気で選ぶ漢方薬の手引き』（小学館）など多数。